

《 平成 11 年のエッチュウバイ・シイラ・トビウオの動向 》

バイかご漁業

石見部および出雲部のバイかご漁業は、小型底びき網漁業（第 1 種）の休漁期にあたる 6 月から 8 月にかけて行われており、現在 7 隻が操業しています。漁獲対象のエッチュウバイは平成 9 年漁期より県 TAC 種に指定され、漁業管理を行いながら、資源の有効利用を図っています。

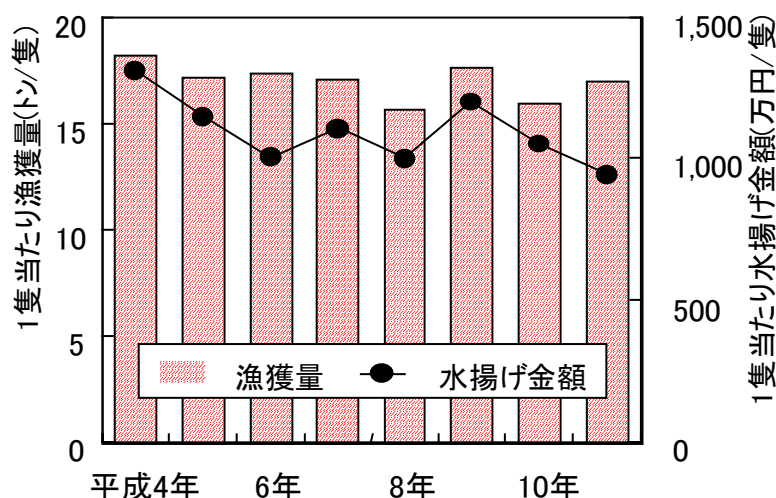


図1 石見部および出雲部バイかご漁業におけるエッチュウバイの1隻当たり漁獲量と水揚げ金額の推移。

今漁期の石見部(6隻)および出雲部(1隻)バイかご漁業における総漁獲量は145トン(前年比114%)、総水揚げ金額は8,808万円(99%)でした。またエッチュウバイの漁獲量は119.2トン(107%)、水揚げ金額は6,617万円(前年比90%)でした。総航海日数は219日で前年(223日)より減少しましたが、漁獲量は前年を上回りました。特に、6月前半は1トン/航海を超える漁をする船もあり、近年では最高のスタートでした。一方、エッチュウバイの価格は漁期を通して全体的に低く、1kg当たりの平均価格は555円で、前年(662円)より100円以上下がりました。特に漁獲量の多かった6月の1kg

当たりの平均価格は509円で、平成4年以降、全体(全銘柄)を通しての最低価格となりました。

図1に1隻当たりエッチュウバイの漁獲量と水揚げ金額の経年変化を示しました。1隻当たりの漁獲量は17.0トン/隻(前年比107%)で前年(15.9トン)を上回ったものの、水揚げ金額は945万円/隻(前年比90%)で前年(1,054万円)より100万円以上下回りました。今漁期はTAC割当量である20トン/隻に迫る経営体が4経営体あり、漁期後半には出漁調整などを行いましたが、全体的に好調に推移しました。一方、1隻当たりの水揚げ金額は、平均価格が低下していることから平成7年以降減少しており、平成4年以降初めて1,000万円/隻を割りました。

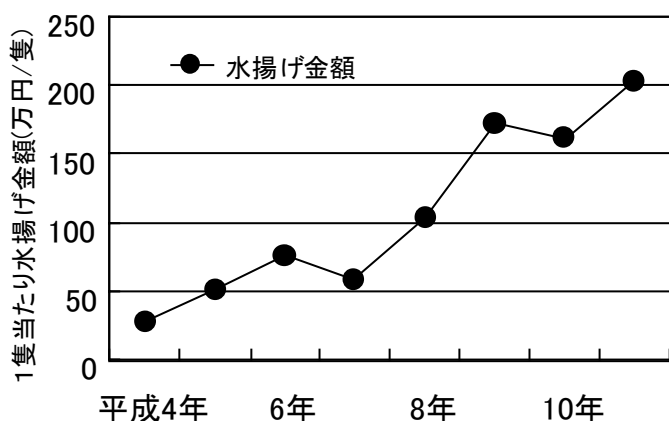


図2 石見部および出雲部バイかご漁業におけるエビ類の1隻当たり水揚げ金額の推移。

近年、増加傾向にあるエビ類(モロトゲアカエビ、イバラエビ)の漁獲量は8.5トン、水揚げ金額は1,422万円と平成4年以降最高の水揚げとなりました。図2にエビ類の1隻当たり水揚げ金額の経年変化を示しました。平成4年以降、漁獲量の増加と共に水揚げ金額も急増し、1隻当たり水揚げ金額は203万円と平成4年の7.3倍となり、初めて200万円/隻を超える水揚げとなりました。近年、全体に占めるエビ類の割合が高くなり、エビ類の漁獲状況により、水揚げ金額が左右されることから今後のエビ類の動向が注目されます。

シイラ漬(まき網)漁業

島根県では、シイラ漬漁業は主に6~8月、小型底びき網漁業の休漁期に行われます。この漁業は、シイラなどがものかげに集まる性質を利用したもので、海面に漬木と呼ばれる竹のいかだ(約10mの孟宗竹を10本程度束ねたもの)を設置し、そこに集まる魚群を網で捕獲するという一風変わった漁法です。漬木の設置場所は、距岸15kmから沖合120kmまでの広範囲に及びます。漁獲対象となるのは、浮魚と呼ばれる海の表層あるいは中層に生活する魚です。

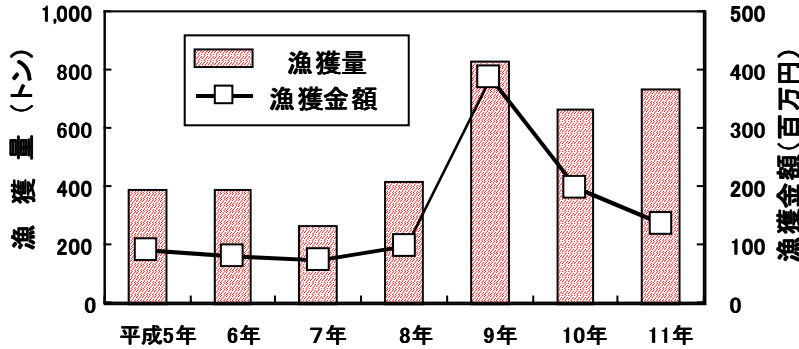


図3 シイラ漬け漁業の漁獲量の動向

このシイラ漬漁業、平成9年のヒラマサの豊漁以降比較的順調な漁が続いていますが、今年はヒラマサの来遊量が減少し、逆にシイラの量が大幅に増加しました。平成11年6~8月漁期、石見地区(大田・和江・五十猛・仁摩・浜田)のシイラ漬漁業の総漁獲量は732トン、水揚げ金額は約1億3,600万円と、量は平年に比べ約40%上回ったものの、金額は平年を約5%下回りました。(図3)

漁獲された魚種は多い順に、シイラ・ヒラマサ・メダイ・クロマグロ・カワハギ類・カンパチとなっていますが、シイラが最も多く709トン(前年比163%)、次がヒラマサで18トン(前年比13%)と、この2魚種で全体の99%を占めています。シイラは、体長45~120cmのものが漁獲されていますが、その中心は体長60~85cm(体重2~6kg)の2~3歳魚となっていました。ヒラマサはシイラよりやや小型で、体長40~80cmのものが漁獲されましたが、大半は体長50cm前後(体重2kg)の1歳魚が中心となっていました。月別にみると、ヒラマサは6月が最も多く、月を追うごとに少なくなり、漁期前半の6~7月に全体の80%が漁獲されました。シイラは逆に漁期後半の量が多く、7~8月に全体の85%が漁獲されました。

漁獲された魚種は多い順に、シイラ・

トビウオ漁

島根県で漁獲されるトビウオ類は、ホソトビウオ・ツクシトビウオ・ホソアオトビなど数種類が知られていますが、漁獲の大半はホソトビウオ(丸アゴ・小目)とツクシトビウオ(角アゴ・大目)の2種類です。トビウオ漁は、産卵のため回遊してきた群れを漁獲対象とします。従って、本県での漁獲は、産卵期及びその前後の5~8月(盛期6月)に集中し、漁場は沿岸近くに形成さ

れ、刺網・定置網・すくい・船びき網・まき網などの重要な漁獲対象となっています。

平成11年5月~8月漁期、石見地区(大田・和江・五十猛・仁摩)のトビウオ類の漁獲量はわずか72トン、漁獲金額は約2,570万円と、漁獲量は45%、漁獲金額は34%平年を下回りました。このように、平成8年以降3期連続の減少となり、今漁期は、近年で最も不漁だった平成6年とほぼ同程度の水揚げに終わりました。(図4)

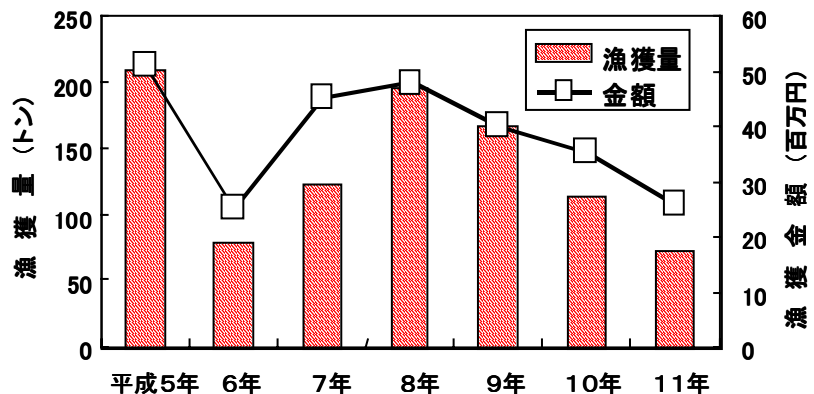
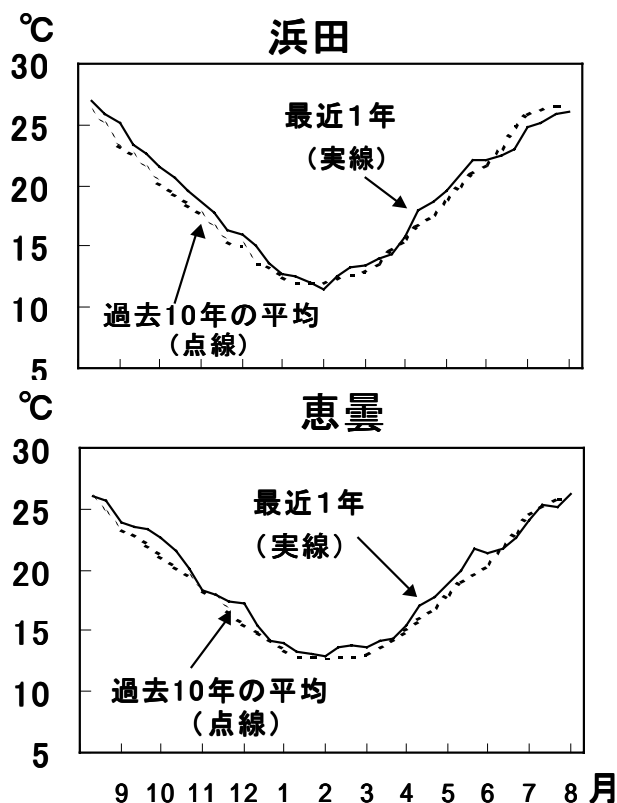


図4 トビウオ類の漁獲量の動向

《 8月の海況 》



定地水温

8月	月平均	平年差	評価
浜田	25.6	-0.8	平年並み
恵曇	25.6	±0.0	平年並み

8月の月平均水温は7月に比べ浜田で2.2、恵曇で2.8上昇し、浜田、恵曇ともに「平年並み」の水温経過となりました。

島根・山口・鳥取の各県水産試験場が行った海洋観測結果（8月下旬～9月上旬）によると、山陰海域の水温は上層ではほぼ全域で「平年並み」、中層および下層では、冷水域の周辺で平年より低いのを除いて、ほぼ全域で平年より「やや高め」となっていました。また沿岸域の水温は、8月上旬に比べて上層で約1、中層で約2上昇しましたが、底層ではほとんど変化しませんでした。また、冷水域が日御崎北西30マイルおよび隠岐諸島北方150マイルに観測されました。日御崎北西の冷水域は8月上旬にも観測されましたが、9月上旬には接岸傾向を示していました。

《 8月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量は471トンで、前年の102%、平年の62%と、やや低調に推移しました。水揚金額は前年の118%とこちらはやや好調に推移しました。漁獲の主体はマイワシ、マアジでした。また、恵曇ではカタクチイワシ、マアジ、ウルメイワシを主体に804トンの漁獲があり、前年の110%と比較的好調に推移しました。浦郷でもマアジ、カタクチイワシ主体に1,677トンの漁獲があり、前年の52%の漁獲となりました。

また、県下各地の定置網でマサバの漁獲が好調であることから、秋以降のまき網での漁獲動向が注目されます。

【イカ釣り漁業】

浜田港に水揚する地元小型イカ釣り船によるイカ類の漁獲量は、ケンサキイカ（3.5～4.0入り主体）を中心に7,009箱で、前年の151%、平年の122%と好調に推移しました。浜田市漁協以外の小型イカ釣り船では、ケンサキイカ（2.5～3.0段主体）、スルメイカ（20～25入り主体）を中心に22,027箱の漁獲があり、前年の141%、平年の83%と低調だった前年を上回ったもののやや低調に推移しました。また、西郷港における沿岸の小型イカ釣りによる漁獲量はケンサキイカ、スルメイカを中心に64.6トンで、前年の157%と好調に推移しました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は185トン、水揚金額は1億2,228万円でした。また1統当たり漁獲量は30.8トン（平年比137%）で、昭和62年、昭和56年漁期に次ぐ高い値となりました。水揚金額は2,038万円（平年比214%）で、昭和56年以降最高の値となりました。ムシガレイ、ソウハチを中心にカレイ類で全体の63%を占め、イカ類を除き全体的に平年を上回る漁獲がありました。

恵曇港の総漁獲量は58トン（平年比206%）、水揚金額は3,971万円（平年比226%）で、量・金額とも昭和61年以降最高の水揚げとなりました。魚種別では、ソウハチ（平年比28.4倍）、アンコウ（平年比11.5倍）、ヤナギムシガレイ（平

年比10.5倍)は平年を大きく上回っています。一方、タイ類、イカ類は水揚げがほとんどなく、平年の数%に留まっています。

【バイかご漁業】

県西部バイかご漁業におけるエッチュウバイの漁獲量は25.6トン(前年比154%)、水揚げ金額は1,539万円(前年比121%)で、量・金額とも前年を上回りました。1航海当たりの漁獲量は413kgで、平成9年に次ぐ高い値となりました。また、エビ類(モロトゲアカエビ、イバラエビ)の漁獲量は2.3トン(前年比142%)、水揚げ金額は423万円(前年比169%)で前年を大きく上回りました。

【定置網漁業】

県下各地区とも好調であった前月を量、金額ともにやや下回っているものの、前年同月と比較すると金額で1.4倍から3倍と比較的順調な漁模様となっています。前月漁獲の主体であったマアジは、隠岐地区と県東部では減少したものの、県西部では大きく増加しています。ケンサキイカもやや減少したものの依然として好調な漁獲が続いています。また、今期はマサバの漁獲量が県下各地で急増しています。平成9年にも8月から定置網でマサバの入網が急増し、その後、秋にまき網でマサバが好調に漁獲されました。今後の動向が注目されます。

【釣・縄】

出漁日数が前年及び前月を上回り(前年比140%、前月比120%)、沿岸の釣は好調な漁模様となりました。

浜田はケンサキイカ・アマダイ・キダイを中心に30トン、3,636万円の水揚げで、量は75%、金額は40%前年を上回りました。五十猛はケンサキイカ・カサゴ・メバル類・マダイ主体の漁で、18トン、1,962万円の水揚げで、量・金額ともに前年を約60%上回りました。両地区ともにケンサキイカが好調で、浜田は前年の約4倍、五十猛は2倍の水揚げとなっています。

漁獲統計

平成11年8月1日～31日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	59	マイワシ・マアジ	8.0ト	471ト
	恵曇	130	カタクチイワシ・マアジ・ウルメイワシ	6.2ト	804ト
	浦郷	96	マアジ・カタクチイワシ	17.4ト	1,677ト
イカ釣り	浜田(沖合)	350	ケンサキイカ・スルメイカ	62.9箱	22,027箱
	浜田(沿岸)	462	ケンサキイカ	15.2箱	7,009箱
	西郷	429	ケンサキイカ・スルメイカ	150.5kg	64.6ト
沖合底びき網	浜田	16	ムシガレイ・ソウハチ	11.6ト	184.9ト
	恵曇	19	ソウハチ・ムシガレイ	3.1ト	58ト
バイかご	和江	9	エッチュウバイ	431kg	3.9ト
	大田市	27	エッチュウバイ	488kg	13.2ト
定置網	浜田	71	マアジ・サバ類・ケンサキイカ	448kg	31.8ト
	恵曇	64	カタクチイワシ・ウルメイワシ・サバ類	434kg	27.8ト
	浦郷	22	ケンサキイカ・マアジ・サバ類	645kg	14.2ト
釣・縄	浜田	1,634	ケンサキイカ・アマダイ・キダイ	18.4kg	30.0ト
	五十猛	735	ケンサキイカ・カサゴ類・アマダイ	24.5kg	18.0ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。